

※この科目では対面授業を実施予定です。受講申込の際は「対面授業スケジュール」にて日程をご確認ください

授業科目名： **サステナビリティ・マネジメント**

科目区分： 戦略・マーケティング（応用）

必修・選択の別： 選択

配当年次： 1・2 年次

単位数： 1 単位（学習期間 1/2 学期）

担当教員： 松原 恭司郎

オフィスアワー（授業相談の受付）：

e ラーニングサイトおよびメールでの質疑応答を受け付けています。

（メールアドレスは大学院グループウェアのアドレス帳でご確認ください）

1. 授業の概要

気候変動やジェンダー平等が市民の関心事となり、機関投資家を始めとする資金提供者による E S G（環境・社会・ガバナンス）評価のウエイトが高まっています。

2030 年を達成期限とする国連の S D G s（持続可能な開発目標）について表層的な理解や誤解がある中で、肝心の環境はプラネタリー・バウンダリー（地球の限界）を超えつつあり、カラフルなホイールバッジや 17 のアイコンから一歩踏み込んで考える時期に来ています。

本授業では、サステナビリティ（持続可能性）、サステナブル・ディベロプメント（持続可能な開発）、S D G s の本質を理解し、サステナビリティ・マネジメントの全容を学習します。

2. 学習目標

- 1) S D G s の目的、特徴、構成そして 17 の目標のポイントを説明できる（第 3 章、4 章、5 章）。
- 2) サステナビリティ・マネジメントの必要性と利用可能なフレームワーク（第 1 章、2 章）を理解し、ある程度活用することができる。
- 3) サステナビリティ・マネジメントのアプローチ（第 6 章、7 章）の概略を理解し、サステナビリティを考慮したビジネスモデル、戦略の構想、設計に活用することができる。

3. 授業計画

第 1 章：サステナビリティが求められる背景

はじめに

第 1 節：サステナビリティ

- （1）サステナビリティ（持続可能性）
- （2）サステナブル・ディベロプメント（持続可能な開発）
- （3）S D G s（持続可能な開発目標）
- （4）レジリエンス（強靭さ）
- （5）「エスカルゴ・ダイアグラム」

第 2 節：「環境課題（1）気候変動」

- （1）プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）
- （2）人新世（アンソロポシオン）
- （3）人口問題
- （4）気候変動と対応策

第 3 節：「環境課題（2）生物多様性」と「社会課題」

- (1) 生物多様性
- (2) 人権問題と人権デューデリジェンス

第4節：サステナビリティ・マネジメントのコンセプト

- (1) パーパス
- (2) TBL、CSRとCSVの関係
- (3) CSV（共通価値の創造）
- (4) ESG（環境、社会、ガバナンス）
- (5) ステークホルダー資本主義

おわりに

第2章：サステナビリティのためのビジネス・ソリューション

はじめに

第1節：ドーナツ・エコノミクス（ドーナツ経済学）

- (1) ドーナツの基本要素
- (2) ドーナツの中に留まるための5つの決定要因
- (3) ドーナツ・エコノミクスの「7つの思考法」

第2節：サーキュラーエコノミー（循環経済）

- (1) ハイパー消費：リニア・エコノミー
- (2) 3R：リデュース、リユース、リサイクル
- (3) サーキュラーエコノミー：「バタフライ・ダイアグラム」
- (4) ケース：ファッション産業のサーキュラーエコノミー

第3節：ビジネスモデルの見える化とパターン

- (1) ビジネスモデルに係る研究の系譜
- (2) ビジネスモデルと(事業)戦略の関係
- (3) ビジネスモデルの見える化
- (4) ビジネスモデルのパターン

第4節：サステナブル・ビジネスモデルのパターン

- (1) サステナブル・ビジネスモデル
- (2) シェア（シェアリング・エコノミー）
- (3) サービス（サービス・ドミナント・ロジック）
- (4) サブスクリプション
- (5) オープン（オープン・イノベーション）
- (6) パーソナライゼーション

おわりに

第3章：「2030アジェンダ」とSDGsの概要と特徴

はじめに

第1節：「2030アジェンダ」とSDGsの概要

- (1) 「2030アジェンダ」とSDGsが描く未来
- (2) 国連文書「2030アジェンダ」とSDGs
- (3) SDGsのアイコン

第2節：「2030アジェンダ」とSDGsの特徴

- (1) 「2030アジェンダ」の概要
- (2) SDGsの「5つのP」
- (3) SDGsの三階層
- (4) SDGsのウェディングケーキ・ビュー
- (5) SDGsの相互関係性

第3節：SDGsのターゲット・レベル

- (1) SDGsターゲットのタイプと期限
- (2) 「SDGsターゲット-Map」
- (3) SDGsターゲットとビジネス・アクションの関係

第4節：ビジネスが重視するSDGsとSDGsウォッシュ

- (1) 企業のステークホルダーとSDGs
- (2) ビジネスが重視するSDGs
- (3) 中堅中小企業とSDGs
- (4) SDGsウォッシュ

おわりに

第4章：SDGsの個別レビュー（1）SDG1～8

はじめに

第1節：人間（People）領域（1）：SDG1～2

- (1) SDG1：貧困をなくそう
- (2) SDG2：飢餓をゼロに

第2節：人間（People）領域（2）：SDG3～4

- (1) SDG3：すべての人に健康と福祉を
- (2) SDG4：質の高い教育をみんなに

第3節：人間（People）領域（3）：SDG5～6

- (1) SDG5：ジェンダー平等を実現しよう
- (2) SDG6：安全な水とトイレを世界中に

第4節：豊かさ（Prosperity）領域（1）：SDG7～8

- (1) SDG7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- (2) SDG8：働きがいも経済成長も

おわりに

第5章：SDGsの個別レビュー（2）SDG9～17

はじめに

第1節：豊かさ（Prosperity）領域（2）：SDG9～11

- (1) SDG9：産業と技術革新の基盤をつくろう
- (2) SDG10：人や国の不平等をなくそう
- (3) SDG11：住み続けられるまちづくりを

第2節：地球（Planet）領域（1）：SDG12～13

- (1) SDG12：つくる責任つかう責任
- (2) SDG13：気候変動に具体的な対策

第3節：地球（Planet）領域（2）：SDG14～15

(1) S D G 1 4 : 海の豊かさを守ろう

(2) S D G 1 5 : 陸の豊かさを守ろう

第 4 節 : 平和 (Peace) とパートナーシップ (Partnership) 領域 : S D G 16~17

(1) S D G 1 6 : 平和と公正をすべての人に

(2) S D G 1 7 : パートナーシップで目標を達成しよう

おわりに

第 6 章 : サステナビリティ・マネジメント (1) 戦略に組み込む

はじめに

第 1 節 : グローバル・フレームワーク

(1) 個人とビジネスの S D G s 達成に向けたアプローチの違い

(2) 「S D G C o m p a s s」

(3) 「S D G インパクト基準」

第 2 節 : 「S D G コンパス」の活用

(1) 戦略プロセスと「S D G コンパス」

(2) 「バリューチェーン・マッピング」

(3) マテリアリティの特定

(4) ロジックモデルと K P I

(5) 「S D G コンパス」の活用状況

第 3 節 : 戦略マップ / B S C の基本

(1) 戦略マップ / B S C

(2) 戦略マップ / B S C を活用した戦略マネジメント

(3) K P I (重要業績評価指標)

(4) カスケード (展開)

第 4 節 : 戦略マップの活用

(1) 戦略マップ (C S V 版)

(2) 戦略マップ (C S V 版) の例

おわりに

第 7 章 : サステナビリティ・マネジメント (2) コミュニケーションと開示

はじめに

第 1 節 : 統合報告の概要

(1) 統合報告フレームワーク開発の背景

(2) 国際統合報告フレームワーク (I < I R > フレームワーク) の概要

(3) ビジネスモデル「オクトパス・ダイアグラム」

(4) 6 つの資本

第 2 節 : 統合報告の実態

(1) 参照ガイドライン

(2) 日本の統合報告書 ベタープラクティス

(3) 統合報告 ベタープラクティス事例 (オムロン)

第 3 節 : サステナビリティ関連情報開示の国際的動向

(1) サステナビリティ情報 関連組織の動き

※この科目では対面授業を実施予定です。受講申込の際は「対面授業スケジュール」にて日程をご確認ください

(2) I S S B 開示基準の構成と4つの柱

(3) ダブルマテリアリティ

第4節：SDGsに係る日本の課題と「ポストSDGs」

(1) サステナビリティ／SDGsに係る日本の課題

(2) ポストSDGs

おわりに

4. 受講上の留意点

* <対面授業>を実施する。対面授業に参加できない場合には、後日ビデオを視聴することが求められる。

* 再試験は実施しない。

5. 成績評価基準

各章課題(35%)+期末レポート(65%)

※但し各章の動画を全て視聴することを必須とする。未視聴の動画がある場合は、その章の課題については採点対象外とする。

6. 必読書籍

・『サステナビリティ・SDGs 経営』松原恭司郎、2022、同文館出版

7. 参考書籍

・『図解ポケット SDGs がよくわかる本』松原恭司郎、2019、秀和システム

・『ビジネスモデル・マッピング教本』松原恭司郎、2013、日刊工業新聞社

・『<新版>松原流：戦略マップ/BSCとOKRの連携教本』松原恭司郎、2018、日刊工業新聞社

8. その他

特にありません